

令和4年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和4年10月18日（火）午前10時

場所：犬山市役所 5階 501会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 奥村康祐 委員 田中秀佳 委員 小倉志保

委員 堀 美鈴 委員 渡邊智治 委員 木澤和子

アドバイザー 県立犬山高等学校校長 石田亘

県立犬山南高等学校校長 森也寸司

事務局 【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課 井出企画広報課長

小枝課長補佐

菊井主査補

【教育部】

中村教育部長

長瀬子ども・子育て監

大黒学校教育課長

高木学校教育課主幹兼指導室長

加藤歴史まちづくり課長

坂野文化スポーツ課長

上原子子ども未来課長

伊藤子ども未来課主幹

記録者 企画広報課 菊井主査補

傍聴者 0名

◆次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

・教育大綱の見直しについて

・令和5年度予算について

・城東小学校・中学校の整備に伴う公共施設の配置について

4. 自由討議

5. その他

6. 閉会

◆会議要旨

議題「教育大綱の見直しについて」

【主な意見】

- ・アンケート時に市民からもらった要望や意見等について、市の回答のようなものを作成する等、何かしらリアクションする機会があった方が良いのではないかと。
- ・大綱案の中で語尾が「～ましょう」となっているが、市民へ押し付けるイメージがあるので、外の表現にした方がよいのではないかと。
- ・一緒にやっぺいこうという意味では「～ましょう」がいい。
- ・「愛情の量」という表現がわかりにくいので、「絆」という言葉を使用するのはどうか。
- ・「取り残さない」ということを大事にしていると思うので、どこかに入れると良いと思う。
- ・市民から市教育委員会へ伸びる矢印を増やすのはどうか。両矢印としてはどうか。
- ・「伝統のあるまち」ということが伝わる表現を入れると良くなると思う。
- ・「感性を育む」という部分に自己肯定や人権というワードが入っており、内容がぼやけてしまうのではないかと。
- ・過去の議論等、経緯や背景を踏まえて検討する必要がある。
- ・基本理念の「生涯にわたって」の部分は必要か。教育委員で検討して欲しい。

議題「令和5年度予算について」

【主な意見】

- ・単に予算の額だけでなく、予算執行に関わる体制や執行後の管理等を含めて議論してほしい。

議題「城東小学校・中学校の整備に伴う公共施設の配置について」

【主な意見】

- ・学校の整備を考えるにあたり、地域全体の公共機能の配置について検討するべき。

◆会議録

<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>皆さんおはようございます。 定刻となりましたので、ただいまより、令和4年度第2回犬山市総合教育会議を開催します。 開会に合わせて、1点お願いいたします。 本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第2条に基づき、公開としています。 また、インターネット映像配信サービス「ユーチューブ」で中継を行っておりますことを、ご了承ください。 それでは、山田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。では、皆さん、改めましておはようございます。</p>
<p>全員</p>	<p>おはようございます。</p>
<p>山田市長</p>	<p>お忙しいところ総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。 私が市長を退任するということは既に表明させていただいておりますので、この総合教育会議に私が出て皆さんと議論するのも最後ということになりますので、まずは皆さんに、これまでこの場で議論ができたこと本当に有意義でしたし、皆様方にご指導いただいたこと、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。</p>

	<p>した。またオブザーバーの先生方にもいつもありがとうございます。感謝申し上げます。</p> <p>思えば、この総合教育会議というものが設置されてスタートを切ったのが、私が市長に就任した年、27年度だったかな。私が市長に就任した時に法が変わって「総合教育会議を設置しなさい」ということになりましたので、この場ができたということ。同時に「大綱を作りなさい」ということになりましたので、この大綱ができて、私の任期満了の年に見直しに入るということで、総合教育会議の出発から今日までを振り返ると非常に感慨深いものがあるのですが、私が思うに、何故この総合教育会議ができたのか、ということはいろいろな歴史的な背景もあるのですが、行政部局と教育委員会、教育委員会は独立した機関ですのでしっかりと意思疎通をしながら、よりよい展開に繋げていくということで、私としてはこの場は非常に意義のある場だと思って、私の思いも皆さんにぶつけさせていただいていますし、皆さんの思いも聞かせていただいて、お互いに犬山の学びのまちづくりを共につくってきたなというふうに思っています。</p> <p>制度というものは、我々がそれを使いこなせるかどうか、ということにかかっていると思います。かつて教育委員会が廃止論という議論が出ましたけれども、「本当に教育委員会というこの機能をフルに発揮しているんですか。」ということを経らずして、「形骸化しているからやめてしまえ。」という議論が一時あったのですが、我々はまだまだこの制度を使いこなしていく工夫、努力を積極的にすべきだと思います。そのひとつの形のこの総合教育会議もそうなのですが、国がこれを作りなさいとって作ったけれども、このようなものは、よその自治体でもそうですが、油断しているとこれすらも形骸化すると思います。ですので、私たちはここに属していながら、常に言っていますが、本気で考える。本気で考えて本気で行動する、その気持ちがあるかないかで制度が生きるか死ぬか、ということが全て決まりますので、ぜひ皆さんにはまだこの後も委員として残っていられる人もあると思いますので、そういう思いを少し、「あの時こういうこと言っていたな。」ということを皆さんの心の中に留めていただければな、と思います。</p> <p>大変有意義な会でした。今日の会議もしっかり充実した会議にしていきたいと思っておりますので、皆様方には、その点よろしくお願い申し上げます、私からのあいさつといたします。では、よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>続きまして、滝教育長、お願いします。</p>
<p>滝教育長</p>	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>昨日は雨でしたけれども、今日は打って変わって非常に爽やかな天気ですけれども、日中はとても過ごしやすく穏やかな空気が流れているという昨今ではありますが、朝晩めっきり寒くなってまいりまして、冬が一步ずつ確実に近づいていることを感じる季節となってまいりました。</p> <p>本日は石田校長先生、森校長先生におかれましては、日頃の学校経営と高校の学校改革で大変ご多用の中でありまして、アドバイザーとしてご出席をいただきましたことを大変ありがたく思っています。ありがとうございます。また、教育委員の皆様方におかれましては、定例の教育委員会、昨日、城東中の学校訪問、また事務教に加えて、今後も予定をされております高雄小、布袋中の研究発表会等、また、市民との意見交換会もありますけれども、多くの時間を割いていただく中での本日のご出席、誠にありがとうございます。</p>

	<p>さて、山田市長の声掛けによります総合教育会議も今日が最後かと思えますと、さみしさ隠しきれないという様な状況でございますけれども、山田市長におかれましては、これまで犬山の教育推進にご指導・ご助言を賜りますとともに、全力で犬山の教育推進にご支援をいただいておりますことに、心より厚く深くお礼を申し上げたいと思えます。本当にありがとうございます。この先、市長が交代をするという時期が嫌でもやってくるわけでありましてけれども、教育委員会といたしましては教育の中立性、継続性、安定性を確保しながら、これまで進めてまいりました様々な取組みを深化・発展させていきたいというふうに考えておりますので、今後とも引き続きご指導・ご助言をいただけますとともに、これまで以上に力強いご支援を賜りますことをお願い申し上げます。教育委員会からのあいさつとさせていただきます。本日は、よろしくお願ひします。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>議事に入る前に本日の資料を確認させていただきます。事前に郵送しました資料として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・資料 「犬山市教育大綱（の見直し案）」 ・参考資料1 「各委員からの意見への対応案」 ・参考資料2 「犬山市教育大綱の見直しについてのアンケート 報告書」 ・参考資料3 「犬山市教育大綱（現在のもの）」 ・参考資料4 「令和5年度 教育関係主要事業」 ・参考資料5 「城東小学校・中学校周辺における公共施設の配置」 <p>以上となります。資料はお揃いでしょうか。 それでは、議事に移らせていただきます。 これ以降は、運営要綱第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。では進めさせていただきます。議題が3つございますが、まず、教育大綱の見直しということで事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 小枝</p>	<p>はい。それでは説明させていただきます。</p> <p>前回の会議では、市長、教育長、教育委員の皆様からご意見をいただきました。それについての事務局対応案が、参考資料1となります。犬山市の教育大綱は、教育施策の大きな方向性を打ち出すものとなっておりますので、具体的な事業等についての記載は見送ることとさせていただいております。現在の教育大綱をベースに、前回の会議でいただいたご意見を踏まえるとともに、9月30日の定例教育会議の後、教育委員の皆様と企画広報課の職員とで意見交換をする場を設けていただきました。その際に出たご意見等を踏まえて、修正したものが、右方に「資料」とあります教育大綱の案となります。資料を開いたページの右側、2番の「基本理念の実現に向けて」ここにあります図については、ご意見を踏まえて大きく変更をしております。それ以外の変更につきましては、赤字で記載をしております。現在のものを確認したい場合は、参考資料3をご覧ください。</p> <p>また、教育大綱を検討するにあたって、「市民のご意見をきくべき」というご意見がありましたので、オンライン、それができない場合には紙で回答していただくという形でアンケートを実施し、それをまとめたものが参考資料2となります。集まった回答は、事務局にて分類をした上で掲載をしております。報告書の5ページをご覧ください。表の左から2番目に「整理番号」とありますが、1番上の整理番号は、「58-3」となっております。これは、58番の人の回答をいくつかに分けた</p>

	<p>うちの3つめということを示しています。意見を分類するために、一部のご意見については分割していますが、それ以外は原文のまま掲載をしています。教育大綱案の変更にあたっては、こちらのアンケートで出てきた意見も大きな方向性を示すものは参考にさせていただいております。なお、回答の中には、要望あるいはそれに近いものが多くありました。報告書の20ページ以降がそれにあたりますが、市の教育に関するご意見ですので、今後の教育行政の参考にもなるかと思いましたので、そのまま掲載し、この場で共有させていただくこととしました。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。事務局からの説明が終わりました。</p> <p>前回、ここで議論させていただいたときに出していただいた意見を踏まえて、大綱の見直し案が作成されて今日の資料に出ています。加えて、前回の意見の中で、「市民のいろんな意向を把握するべきではないか。」というご指摘もあって、それに関する対応もさせていただき、かなりの数、この手のものの意見募集としては、かなり多くの意見が出されたというふうに思っています。これも公式LINEという仕組みもあって、意見集約の形も従来のパブリックコメントだとか意見箱みたいなものと違って、非常にデジタル化の効果だなと思っていますけれども、皆さん気軽に意見が出てきたということで、これはこれで良かったと思っています。そういうことを踏まえて、改めて今日出させていただいているこの見直し案について、さらに皆さんの方から追加でご意見があれば、ここで出していただいて、最終的な形へと仕上げていきたいなと思っています。前回いただいていますから、特にこれ以上付け加えることがないということであれば、それはそれで構いませんので、特に皆さんからさらにこれに対して付け加えるべき点があればご意見を伺いたいと思います。順番に全員ひと回りお聞きしたいと思いますので、あれば言っていただく、なければいいですので。田中委員からよろしいですか。</p>
田中委員	<p>私、事前にお送りいただいたアンケート、市民から本当にたくさん回答をいただいていることはすごくありがたいことだなと思いましたし、そもそもの意見が、価値の重い軽いということは全くないのですけれど、それでもやっぱり、例えば10代が回答しているということは、すごくなんとか、嬉しいとか大変貴重ですし、大事にしたいなと思いつながり読ませていただく予定だったのですが、かなり膨大で、おそらく読み切れていないところがかなりありますし、最終的に冊子、大綱の内容の検討なのですけれど、可能であれば、例えばせっかくいただいた回答なので、これは市としての公式見解ではなくて、例えば委員として思ったことがあれば何かできたりするといった個人的に思っています。「あくまでも個人の感想で、市の公式見解ではないです」ということは明記しないといけないかと思うのですが、可能であれば、すべてに回答することは難しいと思いますけれども、どれくらい時間がかかるか、なかなか現実的ではないかもしれませんが、やはりいただいた意見に対して、「これはこういうふうに思っています。」というものは、委員の顔が見えるとか、対話的な姿勢であったり、コミュニケーションというところから教育が生まれるのではないかなと思いますので。「いや、そうは思いません。私はこうです。」ということも含めて、なんかこうできる場とか、そういうフォームとか、それはそれで用意していただくと大変ですけれども、なんかそういうこともできるといいな、と。せっかくいただいた意見なので、こちら側も顔が見せられるといいなと思いつながり読ませていただきました。</p> <p>大綱はこれだけ意見をいただいているので、読みながらこちら側もいろんなことが、アイデアであったりとか、意見であったり、それに対するリアクションもして</p>

いきたいなど1個思ったのですが、ただ、それをやるとこの場がまとまっていかな
いと思うので、この場でどういうふうなことを申し上げようかと思っていたのです
けれど、さしあたって、大綱の中身を確認といえますか、コメントをさせていただきます。

前回、各委員からの出た意見を参考資料1に丁寧にまとめていただいてありがた
いですが、この中で、私のところもそうなのですが、例えば小倉委員であ
ったり堀委員のところ、**「市民」という点で、「2」**ですね、案でいうと。大綱
の2に**図**にも示されていますけれども、市民の位置づけというものをどう表現する
かというところが、やっぱり私、1番論点になるところかなと思いますし、気にな
るところでもあります。前回も同じ様な主旨で発言をしたつもりなのですが、
小倉委員の**「主体が市民であること」**で、それを踏まえて対応していただいたとい
うことなのですが、やはり私が個人的に気になるのが、語尾を**「～しましょう」**と
変えていただいたということで、赤で**図**の中に書いてあるのですが、前回の繰り
返しになるかもしれませんが、あくまで行政というのは、社会教育であり学校
教育であり、主体は市民、子どもであって、それに対して環境づくり、器という
か、どういう器を提供できるか。あくまでそれは器を提供するだけであって、その
中でどういうことをしていくかっていうところは、理想的かもしれませんが、市
民が考えていく、それぞれ当然、人の数だけいろいろ思いはありますので、大綱を
見たとおりです。ですので、**「こちらから何かこう具体的なものを提供するの、で
きるだけ最小限にするべきだ」ということが行政のスタンスなのかな**というふう
に、私は行政学で学んできたので。ですので、**「～しましょう」というのは、**気持
ちは本当によくわかるのですが、規範であったり、社会がこうあってほしいという
行政のメッセージを伝える気持ちもよくわかるのですが、こういうふうに提示して
しまうと、市民の義務というか、家庭は仲良くしましょうとか、それこそ今、宗教
も問題になっていますけれども、そういうことを行政がどこまで提示するのか、
「～しましょう」というのは、ソフトな表現のように思えるかもしれませんが、
行政側がこれを書くことで私は、市民に対してあるモラルだったり、規範であつた
り、何かひとつのものを押し付けることになるのではないかとすることがすごく気
になります。ですので、当然、家族間のコミュニケーションはここに書かれている
とおり、深まった方がいいですし、**「愛情の量が多い」、「量」という表現、愛情
を量で測るのか、それも表現が難しいところですが、****「質を高める」という
こともよくわかるのですが、質を高めるため、そういう家庭を作るために、「じ
ゃあ市ができることは何か。」**を提示するのであれば理解はできるのですが、**「大
人が子どもの模範となりましょう。」**まったく私はそのとおりだと思うのですけ
ど、それをここであえて書くことの意味とは何か、あるいはそこまで書く必要があ
るのか、そこはむしろ**「市民は市民として何かを考えていってください」、**という
ぐらいでいいのかなという気はしているところです。地域のところもそうなのす
けど、理念・理想はそうなのですが、どうも行政が引っ張っていく、**「こういう社
会を作っていきますよ」、**という何か題目を設定することに、私はやっぱり違和
感があるといえますか。また、堀委員とか小倉委員の文言を聞きながら言ったの
で、堀委員や小倉委員がそうではないということであれば反論いただきたい。私は
その流れでそういうことを思う次第です。この**図**の中の文言がちょっと気になる
というところです。

山田市長

はい。ではすみません、次は奥村委員、お願いします。

奥村委員

今の田中委員の意見へのお話でいいですかね、ひとつ。

山田市長	この大綱の見直し案について、田中委員の意見に対して言っても構いません。
奥村委員	<p>両方ありますので、まず、この大綱に対して伺いたいことが1点あります。私が前、見直しの部分で「6年でいいのでしょうか」ということに5年とされた理由、どうして5年にされたのかという部分を伺いたいということあります。</p> <p>それから、委員の中でも少し話をしていたのですが、「愛情の量」、「基本理念の実現に向けて」の「家族」の部分の「愛情の量を増やして質を高めましょう。」という部分、少しここがなかなか難しい表現、言葉で言ってしまうのですが、なかなか現実になろうと思うと非常に難しい部分があるのかなというものが正直な感想です。そこで、私からひとつ提案なのですが、この言葉を東日本大震災以降、そういった家族がないとか、いろいろなそういう多様性も含めて、「絆」という言葉が非常に多く使われるようになりました。離れ離れになっても、他人同士でも、いろいろな部分での全く血が繋がってなくても家族というような集合体、集まりの中としても、市民の中でも「絆」というものが、言葉として。確か震災のときの1年を1字で表すという言葉があるときに「絆」という言葉が出ていたと思います。ここは例えば、「愛情の量を増やす」というのを「絆を高めましょう」というようなことでも、私の中ではしっくりくるのかなというふうに思いました。ただ、いろいろと他の委員の皆さんの意見の思いや考えがありますので、これは私の思いです。</p> <p>それから、先ほどの田中委員の話で、「～しましょう」という部分に違和感という部分では、私の思った感じでは、確かに言われるとおり、行政側の考えでは、私は、本来であればここは「価値観を育むことを目指す」とか、そういった少し固い言葉になってしまいます。でも、こういった会議でもそうなのですが、やはり何か先導者となって先に引っ張っていく、伴走するという意味では、いわゆるリーダーシップ、この大綱自体がリーダーシップというふうになると、先導するものが必要だと私は捉えます。そうすると、そういった場合は、一緒にする、「～しましょう」という、「あなたがやってください。」ではなく、「together」という意味では、「～しましょう」という言葉のほうが、現代の今の市民の皆さんにはしっくりくる言葉ではないかなというふうに感じます。以上です。</p>
山田市長	はい。ありがとうございます。では小倉委員、お願いします。
小倉委員	<p>はい。大綱として、1番最初に考えていたものよりずっとすっきりして、見やすく、読みやすくなったのではないかなと思いますし、これでいいかなと私は思うのですが、やはり皆で話し合ったときに「愛情の量」という表現は気になるところで、もう少しいい表現、みんなで話し合ったときには「絆」が出てきたのですが、この言葉をもう少し変えて表現できたら、この大綱は素晴らしいものになるのではないかな、と思いました。</p> <p>それで、この大綱から離れるわけではないのですが、本当に「こういうふうに関心を持って向かっていこうよ。」というものができて、これをどう、いかに実践するのかというところが次の課題になってくるのだなと、気持ちがそちらの方にいっているのですけれど、どういうふうを実現して家庭、地域、学校、未来園の中でどういうふうそれが実現されていくかというところが重要なのだな、ということを考えながら、これを見ていきました。市民のご意見もここの中に少しずつ上手に入られているな、ということを感じていて、やはり田中委員のおっしゃるように、言われたことに対してきちんと市が返してくれているところを出していったら「また次の意見も出してみようか」、「前向きな意見も前向きじゃない意見</p>

	<p>も含めて、自分が思っていることを市に投げかけていこう」という良いサイクルができたらいいなというふうに思いました。中には、少し私が思っていたことと違うというか、難しい答えもあるのですけれど、やはり向き合っていきますよ、創っていきますよとここに書いてあるので、より一層まずひとつの行動として起こせるいいチャンスだな、というふうに感じました。大綱としては、これでいいと私は思いました。表現ひとつ変えていただく、ということで。以上です。</p>
山田市長	はい。次、堀委員お願いします。
堀委員	<p>私は「愛情の量」は、前も言ってますが、やはりすごく引っ掛かります。</p> <p>「～ましょう」の言葉につきましては、ちょっと見る人によっては少し押し付けているというふうに捉えられかねないかな、というふうには感じます。このたくさん資料を作られるときにすごく大変だっただろうな、と思って本当にお疲れ様でした。ここの中に、14ページのところに「取り残さない」とあります。これもどこかに入れていただくといいのかな、と思いました。勉強もそうですし、福祉のところもそうなのですけれども、「取り残さない」というものも犬山ですごく大事にしているところだと思えます。不登校にしても、何にしても。ここを入れていただくいいのかな、と思いました。</p> <p>それから、このページの中の「伝わる伝え方」というものが前にはなかったところで、新しく入ってきたのですけれど、この意味を教えてくださいなと思つて、どなたに聞くといいのか。</p>
山田市長	後から私が言います。
堀委員	はい。というふうに思いました。以上です。
山田市長	ありがとうございます。次、木澤委員お願いします。
木澤委員	<p>はい。こちらの「対応案」の私のところに、「市民主体」ということと、「アンケートをとる」ということが書かれているのを読んだときに、「これはえらいことをやってしまったのかな。」という思いがしましたが、以前にも同様のものに関わったことがあったので、そのことを思いましたが、できてきてみると、やはり市民の声を聞くということは大事だなと感じました。いつも同じ場所で同じような人に聞くのではなくて、ダイレクトに聞いたことが多くの意見が出てきたということに繋がっていったとしたらありがたいなと思いました。</p> <p>大綱全体については、小倉委員も言われたと思いますが、文字が見やすくなりました。委員をしているせいかもしれませんが、とても身近なものに感じられる大綱に感じました。それから、読んでみようという気になれる。作っておしまいではなくて、これを読んでみて、もちろん市民がそうだと思うようなものであって欲しいなと思えます。そういう意味では、分かりやすくなったと思えます。この資料に「市民」がしっかりと打ち出されていることが、すごくよかったかなと思えます。これを掲げたことで、市民の人たちもより感じられたのではないかな、と感じました。</p> <p>ここで思ったことが、矢印、私の見方が違っているかもしれませんが、市・教育委員会から上へ向かって市民へいっていますが、市民をとということであれば、この逆、例えば、「～しましょう」というものが関係してくるよう感じられるとしたら、この矢印を上から下、市民からのものもあるのか、その辺の図で見てわかる方法はないかなと感じました。もし違っていたらごめんなさい。以上です。</p>
山田市長	ありがとうございます。渡邊委員お願いします。
渡邊委員	はい。先ほどから出ている「愛情の量」というところは、やはり前も話をしましたが、いい言葉はないかなという中で、「絆」という言葉はすごくしっくりき

	<p>たということは率直に思った感想です。だから、例えばそれぞれのところに、地域で支え合う「力を高めましょう」ではなく「絆を強くしていきましょう」とか、押し付けにならないように、「強い絆を作りましょう」とか。そういうふうなワードを1個もっていくと、わかりやすくはなるのかな、とは1個思ったところです。</p> <p>あとは、この図を見て、先ほど木澤委員がおっしゃられた矢印の向きがすごく気になっていて、教育大綱というものを打ち出して皆さんにご提示してやっていきますよというときに、今回のアンケートもそうですが、市民の意見を聞いて、また変えていくという、お互いが相互作用していかないといけないと思うと、両矢印であるといいなと思いました。</p> <p>あとは、最近の私自身のキーワードの中に、「伝え方」もあるのですが、「共感」、共に感じるというものがあって、理念の矢印を両矢印にすることによって、お互いがいろんなものを共感できるというようなすっきりした図になるのかな、「共感」というものを「伝わる伝え方」とまさに「共感」と一言で言えるといいのかなと思ったところです。</p> <p>あとは、もう1点、ページが変わってしまうのですが、「取組みの方向性」のところで、なかなか難しい表現なのですが、「繋がる」の部分の「郷土愛」とか「豊かな心の育成」のところで、なんとか犬山にいっぱい人が来て欲しいということがありますが、来て欲しいの魅力のところ、やはりものすごく良い素材というか歴史的なものだったり、いろんなものがある中で、特に一言、「礼節や約束を」のところになにか、ずっと受け継がれてきた、「先人が築かれてきた」みたいな、伝統あるまちですよ、そういうものをまた大事にしていきますよ、なんていう、一文が。「約束」というと、「何を？」という感じになるので、「約束」の部分「先人が築かれた伝統を守り」みたいな表現になると読んでいる人としてはわかりやすいのかなという解釈をしました。以上です。</p>
山田市長	はい。ありがとうございます。教育長は。
滝教育長	<p>文章は書き手の意図と、読み手の受け止め方というものがあります。読み取り方もそれぞれ違うと思います。私は、大まかな部分では、前回のものと比較して随分身近に感じられる大綱になってきているのではないかな。だから大部分はこれでいいということですが、細かな部分はいろいろと、こんなところで申し上げていいのかなどうかわかりませんが、気づいたことを少しお話させていただきたいと思います。</p> <p>開いていただいて、「1. 学びのまち犬山を目指して」の「人生を豊かにする！豊かさの質を高める！」の1行目。「誰もが、一度きりの人生を豊かなものにした」と願っていますが、という接続助詞が使われていますけれども、この前の部分と後の部分が、決して逆説ではないので文章を区切って、「願っています。それを実現するためには」といったほうが適切な言葉の使い方かなと思います。その2行下、「人生を豊かにするだけでなく、豊かさの質を高めることができます。」という表現がありますけれども、この「豊かさの質を高める」は、「豊かさを豊かにする」というようなことにも繋がっていきますよね。読めないことはないですよ。ですから、これは「人生を豊かにする」という表現で留めてはいけないのかな、と思いました。</p> <p>それから、それより少し下、「担い手同士の連携プレーで取り組む！」という大見出しがある2行目ですが、「その担い手同士の連携プレーにより」と「連携プレー」という言葉が使われていますけれども、「連携」と「連携プレー」との違いは何かあるのか。これは「連携」ではいけないのかな、ということをおもいました。</p>

	<p>それから、右のページへいきます。「本気で向き合おう！」の「本気で向き合う」がここだけゴシックになっています。前もそうなのですが、多分これは強い思いがあってゴシックにされているのかな、と思うのですが、ここだけゴシックになっているのは何故かな、と全体を見て単純に感じました。</p> <p>それから、この図の中の「家庭」「地域」ので、田中委員がおっしゃいました「~ましょう」がなんとなく義務、押し付けられている気がしてしまうということですが、私自身は、すべての人がやはり教育の担い手である、「みんなで犬山の教育を作っていこうよ」という気持ちがこういう表現になっている。ですから、この「ましょう」を例えば、「していきましょう」というふうにしたら少しと柔らかくなるのではないかな。例えば、「大人が子どもの模範となりましょう。」を「大人が子どもの模範となるような生き方をしていきましょう。」とか。これがいいかどうかはわかりません。例えば、「地域愛を育み、地域の秩序を高めていきましょう」。多少、この「ましょう」というよりも「~していきましょう」と言うと表現が柔らかくなるのかなという気がしました。</p> <p>それから、「学校」の部分、「個」に応じた親身な指導を充実し、今、なかなか「指導」という言葉は、中では使うのですが、学校では子どもの学びを支援する、というスタンスになっていますので、例えば「多様な「学び」の機会を作り、「個」に応じた学習を支援します。」と、学習を支援するというような表現に変えたほうがいいのか。</p> <p>それから、1枚めくって裏側、「取組みの方向性」。「学ぶ」、「学びのまち」、「学びの芽」、「学びの心を育み」、「学びを広げる」。「学び」が多用、たくさん使われすぎているかな。では何なんだろう。例えば、「学びの心を育み、学びを深め、広げる取組みを」というような、もう少し「学び」というのを多用せずに表現ができないのかなと。それから、ここで言う「お互いに連携させる」この互いは、何と何のお互いなのかなと。ここでは、多分主語が省かれているのかな、と思ったのですが、この互いとは、何を意味しているのかな、ということをおもいます。</p> <p>それから、「感動の共有 感動を伝える喜び」、感動そのものが喜びなのではないかな。これはどう表現したらいいのか分からないですけれども、「感動の喜び」とか、あるいは「分かったときの感動」。感動を伝える喜びというより、感動そのものが喜びだと私は思います。</p> <p>それから、「繋がる」の部分ですが、ちょうど真ん中の辺り「人間性を育てる」とありますが、人間性は「育んでいく」のかなというふうに思います。</p> <p>それから最後、「創る」の部分ですけれど、「感性を育む」というタイトルで2行、ひとつの中に非常にたくさんの意味合いが含まれています。ここで1番言いたいことは、感性を育むことであれば、自己肯定感や人権の尊重という言葉、これが余分なのかどうか、もちろん関係がないことはないですけれども、この感性を育むという意味合いの焦点が少しぼけてしまわないかなというふうに思います。ですから、「感性を育む」と自己肯定感や人権は別の書き方をして、ここでは、「感性を育む取組み、そのために国語力を高めるんだ。」というふうに言ったほうがあっさりするのか、と私は思います。私の勝手な意見です。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。たくさん意見が出たので、整理をしていかなければなりません。</p> <p>まず、私が今の議論をいろいろ聞いてまして、率直に感じたことは、最初の大綱を作ったときの議論だったり背景をご存知ない人がほとんどですので、ひとつひとつの言葉の意味が、わからない。わかっていない人がいけない、と言っている意味</p>

ではないです。これを見る人は、そのような議論の経緯を知らない人ばかりが見るわけですので、皆さんが意味を理解されていないということが、率直な印象だと私は思っています。特に、強く皆さんおっしゃったことが「愛情の量」というところです。ですので、私から、私が見る範囲で当時のやりとり、「伝わる伝え方」の話もありましたけれども、そこを、少し説明をさせていただきながら、その上でもっと良い表現があると言うならば、私は別に原文にこだわるものはありません、どうしてもこだわりたいところはありますけれども、私の意見として申し上げたいと思います。まずは、皆さんから出されたものに対して、申し上げます。

少し文章の内容とは違いますが、田中委員と小倉委員からアンケートに対してのリアクション。たくさん意見が出たので、このままではなくて、何かリアクションしたほうが良いのではないかという話だったと思いますが、これは、これだけの意見が出たのでやって良かったと思っています。ただ、個別の意見に対して個別に回答するという事は、少し難しいです。大変な労力がかかりますので、まずひとつは、この大綱の最終的な見直しをして公表していくと思うのですが、検討のプロセスというものを見えるようにしてはどうかと思っています。すなわち、アンケートの報告書はまとめていただいていますので、これを公開する。ということがひとつ重要だと思います。公開する際に、また事務方に手間をかけてしまうので申し訳ないですが、個別の意見にすべて回答することは、限界があるので、総括という形で、コメントの傾向はわかっていますので、その傾向に対する総括というものを添えて検討のプロセスの中で見える化をしていく、ということがご意見いただいた皆さんへの回答といえますか、リアクションになるのではないかな。それもきちんと「みなさんからいただいた意見をこういうふうにご覧いただき、総括させていただきました。」というふうにフィードバックすれば、ご意見いただいた人も「受け止めてくれたんだ。」と。自分の意見が通った、通らなかったかではなくて、「市役所、教育委員会は受け止めてくれたんだね」、という信頼に繋がるので、信頼を高めるための営みとしては、検討のプロセスを見える化して、そこで総括していくということは意味のあることではないかなと思います。少しそれは、少なくともこの報告書が見えるようにすることは、簡単ですよ？総括をどうやっていくのかということ、これは作業が伴ってくるので、ここは事務方と詰めさせていただきたいと思います。そういう観点で、事務方で想定してください。

それから、「愛情の量」ですが、これは昨今の社会情勢というものは、親も大変、共働きだったり忙しい状況があります。昔は、子育ては保育園とかではなくて、家庭で子育てをしてきたというところがあると思うのですが、では、その子どもを保育園に預けて、両親が働いているから子どもが健やかに育たないのかどうかというのは、子どもと親が接触している時間の長さではない、と。いくら長く一緒に時間を過ごしていても、そこにあるはずの愛情が希薄化していたり、あるいは愛情の傾け方が歪んでいた場合には、それは子どもが健やかに育ちませんよね。ですので、時間は短くても、注ぐ愛情の量が多ければ健やかに育ちますよね。愛情の注ぎ方もそれがいびつな形の愛情ではなくて、健全な愛情、良質な愛情であれば、子どもは健やかに育ちますよね。そういう意味で、「量と質」ということになったわけです。昨今の虐待の問題等を含めて社会問題化してきている側面もあるので、この「量と質」という表現をもっと良い言葉があるのではないかと、ということであれば、それはまた、検討していけばいいと思うのですが、背景はそういうことで、ここにその文言が入っているということでご理解いただけるとありがたいと思います。

それから、いろいろ「～しましょう」という点についての議論がありました。私の記憶が間違っているかもしれませんが、実は現在の大綱を議論したときに、この語尾のところを確か直したような気がします。田中委員のご指摘だったのか、どなたのご指摘だったのか、やはり行政が何かを押し付けるということになると、それは展開としてどうなのということがあったので、元の文章は「～します」となっているはずですが。「高めます」や「育みます」。要するに、行政から家庭に対して「あなたこれしなさい」ではなくて、家庭が「自らこうします」という表現が今の文章です。ですので、これは、私が前回、当時の委員の皆さんと議論してそういう結論に至ったので、今の皆さんがそれに違和感があるということであれば、それは教育委員の中で議論してください。私はもう議論を重ねた結果が原文なので、皆さんの総意として「ましょう」が良い、あるいは「していきましょう」と柔らげたほうがいい、あるいは「します」。家庭、地域が自ら「こうします」という形がいいのか。それはそういう過去の議論の経緯も踏まえて、改めて皆さんでお考えいただければ、私は皆さんの総意であれば、それは尊重したいと思います。私は「ましょう」でも「ます」でも特段こだわりはありません。

それから、堀委員から「伝わる伝え方」。これは、私が前回のこの場で申し上げたので、重複するかもしれませんが、これは教育委員会のみならず、行政という組織自体が、情報を発信する、意見を集約する、そういうことについて、私は行政の弱点だと思っています。教育委員会に関わる諸機関も、学校だとかいろんなところも含めて、そういうところが苦手な分野だというふうに認識しています。ただし、これからの時代は、どう上手く情報発信していくのか、あるいは皆さんの意見を集約していくのか、それはこれからの時代の肝だと思っています。苦手は克服しなければいけない。要するに、我々が苦手になっているところが、最もこれからの時代で重要になる部分になっていくというところで、まず、そこに課題があります。それで、「伝わる伝え方」ということですが、伝えるべき相手に伝えなければいけない内容を確実に届ける。届けた内容がわからない内容であれば、届けている意味もないので、伝わる内容でないにだめでしょ、と。更に言えば、それが納得できる内容であることが重要です。先ほど少しその辺の納得というところもどなたかがおっしゃったと思います。ですので、「伝わる伝え方ができるのか。」という意味は、伝えるべき相手に、伝えるべき内容を、必要なタイミング、適切なタイミングで確実に届けて、それがわかる内容になっているかどうか、更には納得できる内容になっているのかどうか。そこが弱点だからきちんとやっていった方がいい、ということです。そういう意味でこれが入っているということです。

それから矢印の向きについては、意見を聞いたら確かにそういう側面もある、双方向のほうがいいのか、という気もしますので、そこはご意見も踏まえて考えていく必要もあるかなと思っています。

最後、滝教育長から細かい文章のところで、いろいろご指摘があったので、そこについては修正すべきところは修正していただいて構わないと思うのですが、少し気になったところだけ。「学ぶ」の「学びのまち」のところは、これを作った当時の教育委員会が出してきた文章で、私の意向があまり働いていない形でこの文章が出てきています。多分、その互いを連携させるというのは、「学びの芽、学びの心を育むこと、学びを深めていくこと、学びを広げていくこと」、そのそれぞれの「取組み連携させることにより」、というふうに私は理解をしています。ただし、この文章を作ったのは私ではないので、この部分については、教育委員会の中で整理していただけるとありがたいかな、と思っています。

「感動の共有」というところは、実はこれは私が文章を入れて、非常に強い意向が働いているので、これも経緯だけ、どうして入っているのかということだけお伝えします。「感動することが喜びだから、「感動」でいいのでは」という話なのですが、人間というものは、感動したものを誰かに伝えたい。あるいは、学校の先生が子どもに何か教えるときに、自分の感動を伝えることも教師のモチベーションという意味で、教える側の喜びではないのか、という意味があってこの表現をしました。これは私の経験で申し訳ないのですが、私は非常に学校の勉強の好き嫌いが激しくて、好きな教科はとことんやるけれど、嫌いなものは一切やらないという生活をしてきました。ですので、理科と社会科は良かったけれど、あとはからっきしだめということで、自分の学校のキャリアとしてはなかなかうまくいかなかった。ただ、社会科がなぜ好きになったかといったら、教えていただいた小学校6年生の時の先生と、高校の時の先生に非常に刺激を受けました。それは、教科書に書いてあること、「何年にこれがありました」ということを教えていただいただけではなくて、その先生は歴史のロマンを教えてくれました。歴史のロマンを教えてくれたから私に感動が伝わってきたんです。だから、教える当事者が、教えようとしていることに感動をしていなかったら伝わらないです。伝えるということは、本気の思いだったり、自分の感動だったり、喜怒哀楽があるから伝わると私は思っているので、教える側の力量、教える力、そこに感動が非常に重要だと思ったので、確かに「感動しています。」といえればそれで済むのですが、伝える側、教える側の喜びの中では、そういう意味での感動が必要ですよ。伝える喜びということが大事です。もう一方で、わからなかったことがわかった喜び。私は好き嫌いが激しくて、数学、算数が大嫌いであまりやってきませんでした。だから、高校受験に失敗するまでは全くだめでした。ところが、受験に失敗したことで、親が強制的に塾に入れました。しかたがないから行きました。そうしたら、そこの先生の教え方で初めて数学がわかるようになりました。「あ、そうなんだ。」と。高校では数学の成績が何故か上がりました。ずば抜けて上がった。それで、なんとか大学だけは行けました。それまではわかる教え方をされなかったと言うと、その中学校の先生に申し訳ないかもしれないけど、全くわかりませんでした。わかる感動というものは、わかったら他の勉強もするようになったんです。わかるようになったことで他の学びに対しての、「わかるということはこういう感動なんだ」ということがあったので、これを書いたってことです。だから受け止める側もわかったときの感動があって、それが相互に共有できる学び合いというものが重要ではないのか。単に犬山は学び合いと言っているだけで、学び合いの行為ではない、感動の共有だという意味です。ということで、こだわりがあったので、すみません、長々と言いました。そういう背景があったということで、「直してはいけない」と言っているわけではないです。背景をお伝えしたので、それを踏まえて、こうした方がよいということだったら、私は受け入れます、ということです。

皆さんのコメント、意見に対して私なりの意見を言わせてもらったのは以上ですけれども、私もこの案に対して若干意見があるので、ここからはこのタタキに対しても意見を申し上げたいと思います。

ひとつめが、この「学びのまち犬山をめざして」の真ん中の部分、「「ひとつづくり」を「まちづくり」の根幹に！」の冒頭ですけど、「ICT化やグローバル化の進展により」とあります。これは以前、この意見交換の中でその主旨の話があって、この表現を入れることはいいです。ただし、今、「ICT化」って言っているのか。「ICT化」という言葉のチョイスが少し、先を見た表現、「ICT化」か「デジタル

	<p>化」がいいのか、どういう表現がいいのかはわかりません。情報化社会ということ はわかりますので、「ICT」という言葉がもはや遅れているのではないのかという 印象を持ちましたので、言葉のセレクトをもう少し考えてほしいなと思いました。</p> <p>それから、1番根幹に係る部分ですけど、「基本理念（めざす方向性）」の ところですが、「生涯にわたって自ら学び続ける感性豊かなひとづくり」のところ、前 回のときから長いなと思います。「生涯にわたって」というところと「学び続け る」は、同様の主旨だというふうに思います。だから、ここは思い切って「自ら学 び続ける感性豊かなひとづくり」も、生涯にわたってという部分も含めた表現にな るのではないか。「学び続ける」ということからすれば。これは「こうして」とい うことじゃなくて問題提起として。私の意見として申し上げるので、また皆さんで 揉んでいただければと思います。</p> <p>それから、「感動の共有」のところですけど、表現をもし変えるっていうこと であれば、別に変えていただいているのですが、もしこれを生かすということにな ると、（句）点が無くてずっと最後まで流れてしまうので、余計わかりにくい。</p> <p>「感動を伝える喜びと、わかったときの感動が、相互に共有できる学び合いを進め ます。」。少し（句）点が多くなるけれど、この文章をもし生かすとすれば、その 辺の区切り方を何か考える必要があるのかなと思っています。</p> <p>あと、教育長もおっしゃったけれど、「創る」のところの「感性を育む」という ところに「自己肯定感」とか「人権」。これは、「人権」は私が言ってここに入れ ていただいたのだけれど、確かに教育長が言うように、感性がぼけるかな、という 感じもするので、ここは別立てなのか、文章を分けるとか何らかの工夫が必要かな という気もするので、その点は一度検討していただくのもいいのかなと思っています。</p> <p>すみません長くなりましたが、私の意見と皆さんからのコメントに対する整理を させていただきました。あと個別の部分は、教育長からもいろいろ表現あったの で、そこは調整してください。</p> <p>ひと通り周りしましたが、何かそれを踏まえて、皆さんのほうで追加の意見ありま すか。よろしいですかね。ひと通り皆さんの意見も出て、意見に対する意見もよろ しいですかね。はい。</p>
事務局 小枝	すみません。
山田市長	はい。小枝補佐。
事務局 小枝	<p>2点すみません。お願いします。</p> <p>1点、奥村委員からいただいた質問の回答ができていなかったもので、大綱の期間 の話です。「5年から何故6年になったのか。」で、現在の参考資料の3「はじめ に」を見ていただきますと、「大綱の期間」こちらにも載っていますが、こちらに ありますとおり「大綱の対象とする期間は、第5次犬山市総合計画後半期と合わせ て、平成29年度から平成34年度までの6年間」としていました。今、こちらの総合 計画が今年度で終わるものですから見直しをかけています。新しい総合計画では、 前期、後期分けて、それぞれ4年間、計8年間の計画とする予定になっています。 前回と合わせれば、4年とするのが筋なのですが、上位にくる総合計画がまだでき ていないのに、新しい教育大綱（策定）を走らせることに違和感を持っていたの で、1年延ばして、こちらは5年とさせていただきたいと思っております。</p> <p>あともう1点、これについては、大綱の作り方のところで、大綱については本来 市長が決めるものであって、それを教育委員の皆様のご意見もいただきながら作っ ていくものとなっています。市長から「この部分については、教育委員の皆さんで</p>

	考えてください。」とあったものについては、市長から一任されるというふうに捉えてしまってよろしいでしょうか。
山田市長	こっちに言っているの。「しましろう」の話？
事務局 小枝	「しましろう」とか、いくつか「教育委員の皆さんで考えてください。」という形で終わったテーマがあります。
山田市長	何だった？
事務局 小枝	「しましろう」とか基本理念のところとか。
山田市長	基本理念は、今日、私がここで初めて問題提起したので、それは「私を作る権限があるから私の思う通りにする。」ではなくて、根幹のところだから皆さんに意見を聞きたい 「しましろう」のところは、こちらに一任いただけるなら、それで整理しますが、委員の間で意見がどうなっているのか私はわからないので、もし、総意で「しましろう」にしてください、と言うならそれでいいです。元から変えている。こちらが変えたわけではないから、こちらの裁量にするのだったら、元の文にします。だからそれは、さっきの基本理念と一緒に、もういっぺん整理してください。最終的にはこちらで整理します。これはないけれど、もう1回くらいありますよね。
事務局 小枝	また、教育委員の皆様には以前の定例教後のように、お話する場を設けさせていただいて、そこで整理して市長に返す、というかたちで。
山田市長	はい。11月の定例教で1回意見まとめてもらって、それを聞かせてもらって、11月中にこちらで方針決定をすればいい。
滝教育長	11月は28日の午後に定例教があります。10月は25日。
山田市長	10月はまだあるなら、10月でやってもらって、11月中にある程度こちらで方針を決めればいい。それならいる間にできるということですね。
事務局 井出	前回同様、定例教の後にまた意見交換する場を。
山田市長	やってください。1回、教育委員会の皆さんで、今、私が「これは教育委員会で」と言った点は、議論してもらって、その顛末は私に聞かせてもらって、その後のことはこちらで整理させていただきます。そういうことでいいかな。
事務局 小枝	かしこまりました。
山田市長	では10月の定例教でやってください。 はい。あとは良かったかな。よろしいですかね、皆さん。大綱について。 委員の皆さんとの議論が終わりましたが、大綱について、アドバイザーの先生、なかなかコメントしにくいかもしれませんが、もしコメントがあれば、何か言っていただいても構いませんが、いかがでしょうか。
石田犬山高等学校長	では、私から。
山田市長	はい、石田校長。
石田犬山高等学校長	大変、すごく熱したのに見受けられて、委員の皆さんもおっしゃっていただきましたけれども、以前と違って明朝体からゴシック体に変えて、字も大きくして、見ていただくという配慮がされた大綱になっているな、郵送していただいた際に思った感想でした。オブザーバーですので、こうしてほしい、ということでは無いのですが、やっぱり見る手側にすると、最初の、中の文面もすごく大事なんですけど、市民の方からすると写真ってすごくやっぱりポイントが高いのかな、とっていて、これはまだ進行中ってということだと思うので、全く写真がまだ変わっていないんですけども、例えば、新しい、各小学校でICTが導入されて、そういった学びに繋がっている、そういった実践の様子を左上の写真に入れてみる、タブレットを

	<p>使ったそういった主体的な学びに繋がるような写真とか。この写真でもいいんですけど、そういったところが少し出てくると。どうしても市民目線でいくと、文言の細かさよりも最初に見たときの印象が大きいとすれば、全体議論になって申し訳ないんですけど、最初の表紙のところもちょっと、皆様のお知恵が入ってくると、より見やすく、わかりやすい、素晴らしい大綱になるんじゃないかな、と思いました。</p> <p>すみません細かいこと申し上げました。</p>
<p>山田市長</p>	<p>いえいえ。はい。森先生、何かありますか。</p>
<p>森犬山南高等学校長</p>	<p>はい。少し思ったことを率直にいくつか。</p> <p>現在のものと、新しい案を比較すると、正直言ってあまり変わり映えがしない。それが良いのか、良くないのかってところなのですが、令和の時代の初めて作る大綱として、これをどのように価値づけるのかという観点で見たときに、なぜほぼ同じ位置に同じものが配置されているのか、ということが私には「うーん」という感じが正直言ってまずひとつ。</p> <p>それから、大綱なので、当然余計な枝葉を取った幹の部分だけということですから、具体は振興基本計画以下で定められてくると思うのですが、これを見た人が、「犬山の教育っていうのはこういうことなのね」という、ある程度イメージというかストーリーが描けないと、「これはなんですか？」という話になります。誰も見ないことを前提にするのであればいいのですが、見てもらって、「こういうことができる。それは他の自治体とは違うかもね。」という方向にもっていきたいなら、ところどころにやはりちょっとした具体がないと「何が言いたいんだろう？」というまま、つかみどころがないものになってないかな、という気はしなくはありません。そういう観点でいうと、例えば、3番目に「「ひとづくり」を「まちづくり」の根幹に！」で赤の部分、この後の文は平成の半ばぐらいから言われてきたことで、令和の時代にわざわざ書くのか、ということ少し思います。「ICT化」って日本語としてありますか、という。まさに「デジタル化」、「デジタル化」ももう使い古されているぐらいなので、いいのかなという気はしなくはないです。それから「積極的な思考」というものが2行目にあって、右下の「市・教育委員会」の2行目にも「積極的に思考」と書いてありますが、積極的だけでなく、求められているものは、「何があるが考えたからこれでいくんだ」ではなくて、「違っていたらやっぱりもう1回考え直そう。」と。そういう発想でもあるので、「積極的に柔軟な」ぐらいでもいいのかな、と思いました。</p> <p>それから、「学びのまち犬山」というものをスローガンとして継続するのであればいいのですが、前の大綱でも掲げたのであれば、そこである程度、一定の成果が得られたという前提でこれを作るのであれば、「学びがより充実するまち」とかいこうほうが多分、「学びのまち」はどこの自治体も言うに決まっているので、「うちの自治体は学びはありません」というはずがないですから。そこと差別化するという点では、「充実します」と。「どういう面で？」、それは個々の基本計画等で見てもらえばわかるでしょう、ということですかね。という感じがします。</p> <p>あとは、市民から市や教育委員会のほうに矢印があると、循環しているという。常に循環して止まってないと。変わる世界、変わっていく時代に、変わらない教育のあり方というものを掲げているわけですから、それにも合わせて、時代をリードするような教育のあり方を、常に市民と一緒に考えていきます、という様なイメージになるかと思います。</p>

	<p>それから、見た瞬間、「繋がる」という漢字が読めないだろうと思いましたので、これはひらがなのほうがいいかと。</p> <p>すみません、いろいろ言いました。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>まず、写真の件は確かに。これは変える想定をしてるのか、してないのか、私、わからないのですが。想定している？わかりました。おっしゃるように、タイムリーな写真がいいと思いますので、またいろいろセレクトしてください。</p> <p>それから、森先生から多様に意見をいただいて、私は今いただいた意見は、非常に率直なご指摘をいただいて、こういう場だと無難におっしゃる人がいるのだけれど、そういうことを率直に言っていたことは、私は非常に傾聴に値する意見だったなと思って聞かせていただきました。根本的に全てを変えてしまうことは、今の時点でなかなか難しいかもしれませんが、いただいたご指摘も踏まえながら、大綱なのか振興計画なのか、どこになるかわかりませんが、やはり先を見た内容にブラッシュアップされていないといけないという点はよくわかりますので、言葉の選び方だったりも含めて、今後の議論の参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>この議題1については、区切らせていただきたい、終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>次、令和5年度の予算についてというところで、参考資料4があります。参考資料4に主なもの、方向性をピックアップしたものがありますが、5年度の予算に対して、皆さんからのご意見が何かあれば伺いたいと思いますが、何かありますか。特になければ、次にいきますがよろしいですか。</p> <p>特になさそうですが、私は予算編成する機会はないので、私が責任を持った発言はできませんが、予算というものは「もっと予算つけてください」とか、「これは無駄だからいらぬのではないか」というものも予算の議論では出るわけですが、私も市政運営していく中で、特に教育に関連する予算は、自分なりに強く意識をして、できる限り先を見た展開であったり、あるいは目の前のいろんな課題への対応だったり、そういうことにしっかり対応できるような予算編成を心がけてきたつもりです。ですので、予算の額としては、それなりの額の予算編成をしてきたはずですが、ただ、やはり老朽化している施設も多く、もっと予算をつけてでも、という思いがあるのですが、もう一方で、予算がどれだけあってもいわゆる教育委員会の人的体制がそれに伴っていないと、お金だけつけても対応できないので、人員の充実ということも私なりに意識して、今も取り組んでいるところです。昨今、人材の確保はなかなかこの自治体、県も苦勞しているくらいですから、共通の課題ではあるのですが、我々としても、単なる予算だけでなく、予算を執行するための体制というものも非常に強く意識しているところですので、皆さんも今後の議論には、単に予算が多いか少ないか、ということだけでなく、執行するための体制、あるいは使うばかりではありません。使ったものに対して、きちんと検証と改善をされているのか。あるいは、管理の部分。買ったものがどうなったのか、どこかでホコリをかぶっていないか、とか。管理の部分も含めて、単に予算の数字だけではないところにも、ぜひ今後、しっかり総合教育会議の場で議論されていくことを期待して私としては、意見として述べさせていただきました。</p>

次に3つめ。城東小学校・中学校の整備に伴う公共施設の配置についてということで、私から設定させていただいた案件なので、今後、特に教育委員会の皆さんに議論していただきたいということで、問題提起をさせていただきます。

城東小学校・中学校に関しましては、整備に伴って、学区の問題をどう考えていくかっていうことは、非常に影響が大きいので、見直すのか見直さないのかを含めて早い段階から議論して、きちんと市民とも情報共有しながら進めていって欲しいということが、過去の総合教育会議でも提起させていただいております。今日は学区のことではなくて、公共施設の再配置ということをぜひ皆さんには意識をして、学校の検討を進めていただきたいという問題提起です。城東地区、特に小学校・中学校のある周辺には、他にも公共施設があります。教育委員会が所管する施設もあります。例えば、城東子ども未来園。あるいは、児童館、児童センター。児童センターは借地です。ですので、城東子ども未来園も少し細い道の奥まったところにあるので、送迎にあたって非常に立地としてどうなのだろうか、ということもあります。教育委員会所管の施設ではないですが、近いところには、城東出張所もあります。この学校周辺には、公共機能というものが点在しているわけです。これからの時代は、学校だけ整備すれば良いということではなくて、周辺の公共機能も含め、いわゆる地域の中の公共機能をどこにどういうふうに配置すればいいのかということ、きちんと全体のランドデザインを持って学校の整備を考えていかないと、学校の整備だけを考えてしまうと、「あの時、こうしておけば良かったのではないか」という話が後から出てくるわけです。だから、そういうことにならないように、これから検討していくプロセスの中では、城東地区の公共施設、公共機能のあり方、公共施設の再配置をきちんと検討して、学校の整備も併せて検討いただきたい、ということが今日の問題提起です。それは、「ここで集約する方向で検討してください」と言っているわけではなくて、まず検討してください。検討もせずに、学校だけ計画してしまって、後から「これを一緒にすべきではないか」と後から言っても間に合わないことがあるので、「今の時点からきちんと全体のランドデザインを考えて検討していきましょう」という問題提起です。検討した結果、「子ども未来園は学校と同じ敷地の中に整備すると、もっと上手く展開できるよね」、「児童センターは学校の中に機能を入れたほうが良いよね」。そのようなことを検討して欲しい。検討した結果、「出張所は別のほうが良いよね」、「未来園は今のままで良いよね。」とか、検討した結果の着地点なら良いです。検討もせずに、一方的に学校だけやれば良いという着地の仕方は、今の時代はもっと全体を見るべき。全体を見ながら個々の課題を見て、どう整合させていくかということを検討して欲しいということです。ですので、今日、私としてはこの件について手掛けていくことはできませんけれども、今後の検討の仕方という意味で、こういうことを意識して欲しいという問題提起ということです。すみません、私は提起するだけで去っていきますけれども、皆さんの頭の中に置いていただければと思います。今日は問題提起ですので、特にこの点について何かご意見があればお伺いいたします。なければ今後の皆さんの議論の中で深めていただければと思います。何かよろしいでしょうか、この件について。よろしいですかね。

では、ぜひこれについては、地域全体の公共機能の再配置ということを前提に検討を深めていただきたいと思います。

すみません。この5年度予算と学校のことについて、アドバイザーの先生からもし何かご意見等、コメントあれば。いいですか。

	<p>はい。では自由討議です。この際、何か皆さんの方から議題以外のことでテーマがあればご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。特になければ、自由討議の方は締めさせていただきますが、よろしいですかね。</p> <p>では自由討議の方は終わらせていただきます。</p> <p>次がその他ですが、事務局からありますか。</p>
事務局 小枝	<p>はい。次回の総合教育会議の日程についてです。次回の総合教育会議は、2月の予定です。総合教育会議とは直接関係ないのですが、先ほどの話で、10月25日定例教育会議の前か後かにお邪魔して、先ほど市長から「教育委員会で揉んでくださいね。」って言ったところについてお話しできたら、と思っていますので、よろしくお願いたします。</p>
田中委員	その件で。
山田市長	はい。
田中委員	<p>「次回定例教育会議で」というところで、定例会の外でやるということですか？議題として検討するというのではなくて、議事録も残らない前後の終わった後、始まる前という話？改めて定例会の中で、発言録が残ったりといったオフィシャルなやりとりではないところでやる、ということ？</p>
滝教育長	<p>前回はそうでしたが、一応定例教は閉じて、自由に話し合おうということでしたので。</p>
山田市長	<p>定例教の中で最終的にどこかで総括していただいてもいいのではないのでしょうか。もし何も残らないということがいけないと言うなら。私はオープンにやっていたのではないかと思うのですけれど、閉じてやる必要があるのかどうかということの、私の裁量ではないですけど、教育委員会の裁量でお考えいただければいいので。</p>
滝教育長	<p>定例教、毎回、議題がいっぱいです。前回は定例教を閉じたところで、やったので。田中委員のお話は、中でやった方がいいというお考えなのか、外でやった方がいいか。</p>
田中委員	<p>どちらでも。単純な確認ということと、あるいは、先ほど一周したところで、ここでまたやりとりすればいいのでしょうか。改めて細かい点を確認するということであれば、例えば、今日出た意見に対するリアクションも含めて継続的に議論するのであれば、議事録を残してオープンなところで、むしろ、市長がおっしゃったように。例えばこれは内部資料ですよ？途中の段階の案は市民に公表していませんよね？</p>
事務局 井出	<p>いえ、ホームページで公表しています。毎回、この会議の資料も議事録も公表していますので。経過はわかることになっています。</p>
田中委員	<p>ここからもし、変わったバージョンが最終案になるのであれば、どこの場でそれが変わったのか、というところが、行政としては本来であれば、「ここでこういう議論があったから、こういう意見が出たからこうなった」ということは、残しておいたほうがいいのか、と少し思ったので、というその確認もありました。</p>
山田市長	<p>教育長はじめ、教育委員会が判断されることだから、私が介入することではないかもしれないけれど、私の意見を言わせていただければ、大綱に関する意見交換を定例教でやっているのであれば、私は公開の場でやるべきだと思います、私は。それは議事録が残るところでやったほうがいいのか、と少し思っているわけではないことは重々承知なのだけれど、今の時代は、隠さなくてもいいことを非公開の場でやるということは、「なんで？」ということの方が起きやすいので、皆</p>

	<p>さんを守るためにもオープンの中で正々堂々やった方が、後々、「何もやましいことはありません」という。別にやましいことなんて、ないけれど。だから、そこはそういうふうにした方がいい。だから伝わる伝え方なんです。だから苦手なんですよ、そういうところが。私は行政がそういうところが苦手だと思っているので、今後の議論の進め方は教育委員会で検討されたほうがいいのではないのでしょうか。別に強制はしませんけれども。私は公開でやったほうがいいと思います。だから教育委員会だって、公開しているわけですよね。</p>
滝教育長	<p>最終的には、また。</p>
山田市長	<p>それが、教育委員会基本条例なんです。教育委員会基本条例というものがなぜできたかということが、そこにあるわけです。いらない話になりますけれども、公開でやった方がいいと私は思います。あとは考えていただければと思います。</p> <p>それでいい？</p>
事務局 小枝	<p>はい。</p> <p>では次回の会議は2月ということでよろしくお願ひいたします。</p>
山田市長	<p>その後も、事務局から報告がありましたので、これで終わらせていただきます。</p> <p>では、これをもちまして、総合教育会議を閉じさせていただきます。皆さんお疲れ様でした。</p>
全員	<p>ありがとうございました。</p>
<p>< 閉 会 ></p>	